

明るく・楽しく・有意義に

愛知工業大学 名電高校 愛知万博長久手会場・・・

世界の若者たちが交流の輪広げる

中部国際空港の開港や愛知万博の開催など、ことしは「元気がいい」といわれる愛知ですが、中でも愛知工業大学や名電高校へは世界各国から大勢の若者が集い、ロボット製作や課題研究の発表で交流の輪を広げ、「元気」を盛り上げました。



愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

IDCロボコン2005

愛工大予選・ドーム決勝で団結力発揮

世界七カ国の工科大生がロボット製作と操作技術を競い合う「IDCロボコン2005」決勝大会が八月十六日、愛知万博長久手会場のエクスポドームで行なわれ、ホスト校・愛工大の後藤泰之学長が歓迎の挨拶をしました。IDCロボコンテストは一九九

〇年から毎年開催されており、ことしは愛工大がホスト校・ワークショップ会場になりました。

マサチューセッツ工科大（アメリカ）、ケンブリッジ大（イギリス）、ダルトンシュタット工科大（ドイツ）、ソウル大（韓国）、サンパウロ大（ブラジル）、大学選抜チーム（フランス）の計六カ国に、日本から東京工業大、一橋大、愛工大など計七カ国四十六人が参加。十一チームが十五日の愛工大予選、十



愛和会館講堂で行なわれた愛工大予選



決勝大会で挨拶する後藤泰之学長

目次:

万博大学関連	2
文科省の科研費補助	3
提携校からお客さま	4
地域防災センター	5
スポーツ情報	7
学校見学会など	8

発行所
名古屋電気学園
〒464-8540
名古屋市中種区若水3-2-12
(052)721-0201

六日の決勝でアイデアと操作技術を競い合いました。学生たちは愛工大をワーク

ショップに、約二週間でロボットと動作プログラムを完成させました。

AITサイエンス大賞・国際交流大会



北米代表26人vs日本代表95人

北米の高校生代表を招いた「AITサイエンス大賞・国際交流大会」が七月九日、愛工大10号館大講義室などを会場に開かれました。主催は、愛工大とケンタッキー州を拠点とするトヨタ自動車系企業「TMMNA」。来日したのは、種々の科学コンテストで優秀な成績を収めた二十六人で、合衆国とカナダから参加しました。日本側は、昨年の第3回サイエンス大賞で各賞を受けた十九校九十五人です。午前九時三十分からの開会式に続き、日本側、北米

側の順にステージ発表が英語で行なわれました。またAITプラザ一階ではパネル展示も行われ、出展者たちが自作を説明しあうなど、交流を深めていました。写真①。北米の一行は前日朝、愛工大名電高校を訪問。英語やデザインに興味を持つ名電高校生五十二人と協力しあい、午前中かかって「からくり人形（茶運び人形）」の組み立てに挑戦しました。写真②。また、全員で一日遅い「七夕祭り」を楽しみました。

TMMNA : Toyota Motor Manufacturing North America Inc.

人力飛行機やロボットなど11件
本年度のチャレンジプロジェクト

愛工大生の夢やアイデアを実現させるための支援制度、チャレンジ・プロジェクトの平成17年度対象研究11件が決まりました。助成総額は約680万円で、代表者、研究テーマ、グループの人数、助成金額などは下表の通りです。

申請代表者	学科(院は専攻)・学年	プロジェクト研究課題	人数	指導教員	助成金
林 賢亮くん	院・生産システム工学1年	人力飛行機プロトタイプ機的设计・製作	27人	酒井春雄教授	1,400,000円
水谷慎平くん	土木工学科3年	新発想のコンクリートの補強技術	11人	小池則満講師	49,800円
高橋睦良くん	院・電気電子工学1年	視覚をもったインテリジェントカーの製作	10人	中村栄治助教授	330,000円
吉見圭司くん	院・電気電子工学1年	パイプ点検ロボットの開発	11人	加藤厚生教授	815,000円
下村大祐くん	院・生産システム工学2年	消費者行動におけるトライアル・リピートモデルの検証に関する調査	5人	寺本和幸教授	605,000円
横山賢二くん	情報通信工学科4年	ヒューマノイド型ロボットプロジェクト“行け!鉄人”	14人	古橋秀夫助教授	850,000円
藤澤敏旭くん	機械工学科3年	トラック競技用ベースメーカーロボットの製作とロボットグランプリ大会への参加	7人	渡辺 修教授	625,000円
小川隆弘くん	電子工学科3年	二足歩行ロボットの研究	8人	平松誠治講師	490,000円
執行雄一くん	建築学科3年	ストローベイルハウスの研究	6人	建部謙治教授	250,000円
鷲津新佑くん	電気工学科4年	燃料電池車の製作およびワールドエコノムープin豊田・豊橋・幸田への参加	9人	雪田和人助教授	735,000円
茹 家勝くん	院・電気電子工学2年	機能的飛行船の作製	10人	内田敬久講師	650,000円

愛知工業大学主催の
「21世紀・万博大学」
好評開催中です!

九月は二回開催、十日に修了証授与式

愛知万博に協賛して愛知工業大学が主催する「21世紀・万博大学」は、四月六日の開講以来、好評のうち二回を重ね、八月二十日には第十一回講義が開催されました。九月の講義は二回で、最終十三回目の十日には、長久手会場・エクスポホールで修了証の授与式が

行なわれます。各界の著名人が講義を担当し、一般市民も聴講できる公開講座のため、会場(初回と最終回はエクスポホール、二、十一回は大学10号館二階大講義室)はいつも満員の盛況。10号館一階の大講義室、名古屋市中心部の大学本山キャンパス

と愛工大名電高校には、遠隔講義システムが導入されており、大勢の人たちが大型画面で聴講しています。講義内容(第九回は講師が書馬輝夫氏から藤野政明氏に変更)をすべてお知らせしたいのですが、スペースの都合で写真掲載のみとさせていただきます。なお、講義の概要は学園のHPに掲載中です。



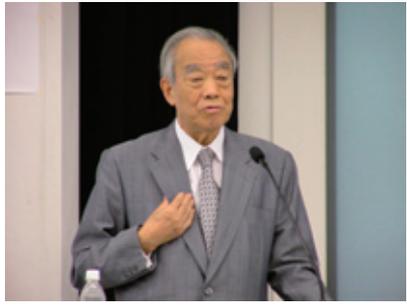
第8回 C・W・ニコル氏



第9回 藤野政明氏



第10回 須藤誠一氏



第11回 河合隼雄氏



第5回 中村桂子氏



第6回 遠藤守信氏



第7回 藤本義一氏

本年度の文科省「科学研究費補助金」 愛工大関係は新規7件含む18件

文部科学省と独立行政法人・日本学術振興会が公募する「科学研究費補助金」の平成17年度交付分が決まり、愛知工業大学関係では下表の18研究が対象となりました。研究種目別では基盤研究B（印）1件、基盤研究C（印）9件、若手研究B（印）7件の計18件で、継続が11件、新規は7件となっています。戸伏壽昭工学部機械学科教授の特別研究員奨励費（印）は、ポーランドの女性研究者、エルズビエータ・ピエチェスカさん（科学アカデミー研究員）を招いての共同研究が助成の対象です。

	研究代表者	研究課題名	補助金
継	稲垣道夫応用化学科教授	カーボン被覆触媒粒子の創製 - カーボン層のナノ構造制御による機能の高度化	2,300,000円
継	中島 剛応用化学科教授	フッ素化反応による炭素材料の表面構造制御と電極特性	1,100,000円
継	大野勝久情報科学科教授	IT活用によるJIT生産システムの進化に関する研究	1,600,000円
継	森野奎二都市環境学科教授	電気炉酸化スラグ骨材を用いた既存コンクリートの耐久性に関する研究	900,000円
新	中村栄治電気学科助教授	超低解像度動画画像処理の基礎研究	700,000円
新	石井直宏情報科学科教授	ニューラルネットワークの非対称、対称構造における認知、記憶機構の計算論的研究	2,400,000円
新	酒井忠雄応用化学科教授	酸性染料の異染色性を利用する尿たんぱくの高精度マイクロセンサーの開発	2,400,000円
新	岩田博之電気学科講師	半導体表面の水素プリスタリングの動的特性解明とナノ加工への応用	1,500,000円
新	高木 誠機械学科教授	透過電子顕微鏡（TEM）を用いたナノスケールの摩擦現象の解明と潤滑法の開発	1,900,000円
新	平野正典応用化学科助教授	広範な固溶領域をもつ新規なアナターゼ光触媒の低温直接創製とハイブリッド化	1,800,000円
継	北川一敬機械学科助教授	複雑ポーラス媒体による衝撃波環境の減衰効果と多次元衝突干渉の解明	500,000円
継	鳥井昭宏電気学科助教授	圧電素子のオンオフ制御を用いた3自由度ミニチュアロボットの動作解析	800,000円
継	小橋 勉情報科学科助教授	錯綜的企業間関係成立プロセスの分析	600,000円
継	太田伸幸基礎教育センター講師	競争的状况下における個人の状況認知および行動選択に関する研究	900,000円
継	内田敬久機械学科講師	精密位置センサの開発に関する研究	1,300,000円
継	雪田和人電気学科助教授	マイクロ水力発電・高効率小型風力発電システムの開発と系統連系制御技術	900,000円
新	道木加絵機械学科講師	作業に対する情報の重要度に基づいた画像からの環境情報抽出手法の研究	1,500,000円
継	戸伏壽昭機械学科教授	静的および動的負荷を受ける形状記憶合金と形状記憶ポリマーの熱・力学特性の研究	300,000円

後藤すゞ子先生奨学金
男子大学生
二人に支給
 名古屋電気学園の学園長を務めた故後藤すゞ子先生の遺志に基づき、就学の意思がありながら学費負担に困難を生じた設置校の学生・生徒に支給される後藤

すゞ子先生奨学金が五月二十一日と七月一日、大学の男子学生にそれぞれ後藤淳理事長から贈られました。経営情報科学部三年の学生はことし四月に父親を亡くし、工学部二年の学生は四月十五日に隣家火災の延焼で自宅を全焼したもので、後藤理事長が激励の言葉を添えて交付しました。



横井明・愛名会会長

代文化研究所顧問で元トヨタ自動車環境部担当部長）が「自動車と環境問題への企業の取り組み」と題して講演しました。

平成17年度愛名会総会と講演会開催
会長に横井豊田自動織機会長
 名古屋のホテル 本年度事業計画など承認
 名古屋電気学園の支援組織である「学校法人名古屋電気学園愛名会」の平成十七年度総会と講演会が六月九日午後、名古屋市中区錦三の名古屋国際ホテルで開かれました。総会に先立って開かれた理事会で、平成十五年から会長を務めてきた太田宏次氏（前中部経済連合会会長・前中部電力会長）の任期満了に伴う退任と、後任会長に横井明・豊田自動織機会長の就任がそれぞれ承認されました。会長の任期は二年。
 総会では平成十六年度の事業・決算などの報告、平成十七年度事業計画などの承認に続き、愛知万博・日本自動車工業会パビリオンで副館長を務める小島文毅氏（現代文化研究所顧問で元トヨタ自動車環境部担当部長）が「自動車と環境問題への企業の取り組み」と題して講演しました。



愛工大も代表団検討へ
 学術交流提携校の米国ケンタッキー大から五月十八日、リー・トッド学長ら八人が来学しました。
 本部棟四階会議室で後藤淳総長、後藤泰之学長、稲垣慎二、澤五郎両副学長、森豪基礎教育センター教授、榎田玄一郎工学部教授、北川一敬助教授らと懇談。後藤総長が大学の近況や愛知万博への出展状況などについて説明したあと、後藤学長が「愛工大からもケンタッキー大に代表団をおくり、さらに交流を深めたい」と提案し、リー学長も歓迎の意を表明していました。このあと一行は総合技術研究所、耐震実験センター、地域防災研究センターなどを見学しました。

提携校からも大勢のお客様

東南大関係

ケンタッキー大

姉妹提携校の東南大(中国・南京市)からは、教職員の代表団が3回大学を訪れたほか、附属の南京市第9中学(中高一貫校)の生徒も来日し、名電高生らと一緒に万博や名古屋市内見物などを楽しみました。



副学長(正面右から2人目)らと交流協議



胡代表団と専門分野別交流について協議



長周期地震動を体験する劉代表団の一行



吹奏楽部の歓迎演奏を聞く南京市第9中学生

2副教授が特別講義を実施

【顧冠群学長ら7人】

五月二十四日朝来学し、本部棟四階会議室で後藤泰之学長、稲垣慎二、澤五郎両副学長、吉川幸雄基礎教育センター教授らと今後の交流計画について協議しました。このあと総合技術研究所、地域防災研究センター、12号館・みらい工房などの学内施設を見学。続いて冷嘉偉・建築学系副教授、夏勤・システム系副教授の特別講義があり、午後からは全員で名古屋市の本山キャンパスを見学しました。

冷副教授は、二〇一〇年の上海万博に関する基本構想をテーマに、都市環境学科の学生約八十人に特別講義。万博会場としてなぜ上海が選ばれたか、会場づくりの構想はどうなっているかなどを画像を交えて説明しました。また夏副教授は、工学部電気学科生や大学院生約百五十

人を前に特別講義。「IPv6(インターネットプロトコル・ヴァージョン6)の技術紹介」

をテーマに、最新のネットワーク技術が市民生活にもたらす恩恵などについて話しました。専門分野別の具体的交流検討

【胡敏強副学長ら9人】

六月二十日午後来学し、本部棟四階会議室で、後藤泰之学長ら愛工大関係者と交流計画について打ち合わせたあと、学内施設を見て回りました。また、専門分野別の技術交流実現などについて、総合技術研究所で小嶋憲三工学部長ら電気、機械工学系の教員と代表団の一行が具体的な話し合いをしました。

「ぶるる」で長周期地震体験

七月二十日午後に愛工大入りし、本部棟四階会議室で後藤淳

総長、後藤泰之学長ら大学幹部と懇談。大学の最新情報を交換したり、今後の交流計画を話し合ったりしました。このあと学内施設を見て回り、地域防災研究センターでは「自走ぶるる」に乗り込み、震度6程度の長周期地震動も体験しました。

附属校生が初めて名電高へ

【柳祖平副学長ら10人】
 東南大附属で中高一貫の南京市第九中学から八月二十二日、柳副学長ら教員二人と高校一、二年の男女生徒各四人の計十人が名電高校を初訪問、吹奏楽部員が北校舎一階ロビーで演奏を披露して出迎えました。三年生の計画がようやく実現したもので、来年は名電高生が南京を訪問する予定。一行は愛工大学生寮に宿泊して四日間、名電高代表十三人と交流しながら愛知万博見物などを楽しみました。

地域防災研究センターが運用開始

愛工大で開所式 入倉京大副学長が特別講演

文部科学省の産学連携構想の選定プロジェクトに選定された愛工大都市環境学科・正木和明教授らの研究プロジェクト「地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発」の拠点施設、「地域防災研究センター」が愛工大10号館北西側に完成、六月十日午後から同センターと愛和会館講堂などを会場に開所式が行われました。

正午前、同センター前で後藤淳理事長、後藤泰之学長、澤五郎副学長、正木教

授（地域防災研究センター長）らによるテープカットが行なわれ、続いて約一時間、特設会場で報道関係者らに施設の概要、研究内容などの説明が行われました。高層ビルなどでの揺れ方を再現する「長周期地震動」体験コーナーでは、正木センター長とローレンス・ケリー基礎教育センター助教が自走式振動台「ぶるる」で、震度6近い揺れを体験していました。午後一時からは、会場を



④⑤テープカットする後藤淳理事長（中央）ら関係者⑥⑦特別講演する入倉京大副学長⑧完成した地域防災研究センター

愛和会館二階講堂に移して開所式が行なわれました。後藤学長らのあいさつに続き、入倉孝次郎京大大学副学長が「巨大地震を正しく恐れる」スマートラ沖地震と東海、東南海、南海地震の共通点と相違点をテーマに基調講演しました。

センターは鉄筋コンクリート二階建て、延べ約五

「智恵の門」が 近く万博会場に

愛工大での制作急ピッチ

愛工大10号館北側の駐車場脇で、愛知万博瀬戸会場の市民パビリオンに展示されるオブジェ「平和行進曲 智恵の門」の制作が進んでいます。作者は台湾出身の芸術家で米国在住の林世宝さん（43）。八月末ま



「智恵の門」制作に打ち込む林さん

百二十平方メートル。円筒形をした六基の免震装置に支えられており、減衰性の高い積層ゴムが六十センチの横揺れまで、地震エネルギーを吸収する設計になっています。

地域防災研究センター

三河地域にある企業の地震防災向上を目的に、技術開発とセンターの果たすべ

き役割を研究します。地震計などを設置した三十カ所の観測地点からデータをセンターに集約・分析し、各企業に二十四時間、地震情報を配信するシステムの構築を目指します。また、企業とその従業員家族を取り込んだ市民防災システムの研究、新しい耐震装置の開発などを手がけます。

とになっています。

材料は、全国から届けられた約三十万本の不要サイパンなどで、接着剤を使って高さ約四メートルの凱旋門をイメージした平和の門に貼り付けていきます。林さんは「パンの色分けは多くのボランティアが応援してくれたし、愛工大には快く制作場所を提供していただいた」などと、地元支援に感謝していました。

大学の八千草寮南館完成

東南大附属校生らも利用

昨年暮れから大学・八千草寮南側で工事が進められていた八千草寮南館がこのほど完成しました。写真。南館は鉄筋コンクリート四階建て、延べ約千三百平方メートルで、一階にはロビーやラウンジ、洗濯スペースなどがあり、二・四階は居住スペースとなっています。

す。個室は二、三階に各十一室あり、四階には女性用四室と、室内ドアで行き来できるコネクートルーム三室（六室分）、ラウンジなどがあります。

南館は、八月一日から「EDCロボコン二〇〇五」に参加した世界七カ国の学生らが滞在。二十二日からは東南大附属校の生徒らが使用するなど、海外のお客様の役に立っています。





「まるごと体験」に延べ七百人が参加

子どもや保護者らに科学の楽しさを知ってもらおうと七月三十日と三十一日の二日間、愛工大の「まるごと体験ワールド」が開かれました。二日間に延べ約七

百人が参加、鉦徳館やみらい工房、総合技術研究所、各学科の実験室などを会場にパソコン分解講座(写真㊸)、クラフト風車や竹とんぼ、紙飛行機づくりなどに挑戦しました。また地域防災研究センターで長周期地震動を体験したり、厚紙で簡易震度計を作ったりしました(写真㊹)。唯一、キャンパス外の矢作川で開催される水生生物の観察会にも、大勢の家族連れが参加しました(写真㊺)。

愛工大でオープンキャンパス 1500人が大学の雰囲気満喫 真剣な表情で入試説明聞く



愛工大の中身や入試方法などを高校生や保護者らによく知ってもらおうと八月三日、ことし初めてのオープンキャンパスが開かれました。約千五百人が参加、10号館一、二階の大講義室で開かれた大学の施設概要や入試方法の説明、先輩学生による合格体験談紹介を真剣な表情で聞き入っていました(写真㊻)。

このあと参加者たちは、学科・専攻別のデモンスト

PC使い名刺作り
ACEで12人が取り組む
小学生や保護者らにパソコンの楽しさを知ってもらおうと、愛工大情報電子専門学校(ACE)はことしも「パソコンを使って名刺を作ろう」の三日間講座を開催しました。

講座には小学四、六年の児童八人と保護者四人の計

レーション会場を回り、大学の授業やゼミの感触を味わい、実験資材を直に触れて研究の面白さを実感していました。また、「IDCロボコン二〇〇五」に呼応して「学生マイロボット作

品展」がA I Tプラザ一階で開かれ、愛工大ワークショップでロボットを制作中の世界の学生たちも見物に訪れました(写真㊼)。

次回は、大学祭に合わせ十月十六日の開催予定です。

十二人が参加。初回は六月四日で、まず講師の中山貴子助教が文章ソフト・ワードの基本設定、用紙の大きさや紙質の決め方、デザインを取り込み方などについて説明しました。六月十一日と十八日にも講座が開かれ、最終日には参加者



画面とにらめっこで名刺づくりに挑戦する参加者

全員が自作の名刺をプリントアウトし、講習の成果を確認し合っていました。

第4回A I Tサイエンス大賞 11月12日に審査・発表会

若者の「科学心」を育てようと、名古屋電気学園は創立90周年を記念して「A I Tサイエンス大賞」を制定しましたが、ことし十一月に開催される第四回大賞の作品を募集中です。応募の対象は東海四県(愛知、岐阜、三重、静岡県)の高校生で、「自然科学」と「ものづくり」の二部門あります。申し込みの手順は次の通りです

【エントリー】9月16日(金)までにはがき、電話、ファクスまたはメールに、作品のテーマ、生徒名、顧問名、学校名、所在地、学校電話番号を記入、下記住所に申し込みます。

【応募要項の送付】申し込み受け付けを確認後、係が応募要項を送ります。

【応募締め切り】10月1日(土)必着。

【応募締め切り】10月1日(土)必着。作品の審査・発表会は、十一月十二日(土)に愛工大で開かれます。午前九時四十五分から自然科学、ものづくり部門のステージ発表。午後零時半からはパネル展示の発表があり、午後三時半から講評や表彰式などが行われます。

〒470-0392 愛知県豊田市八草町八千草1247
愛知工業大学エクステンションセンター
「A I Tサイエンス大賞」係
電話 0565-48-8121(代表)
ファクス 0565-43-1335
E-Mail e-center@aittech.ac.jp

目標の「大賞」受賞逃す

愛工大生を軸にした「みずわか連」

おいでん踊り
お総踊り

第三十七回豊田おいでんまつりの中心イベント「おいでん総踊り」が七月二十九日と三十日の夜、愛知県豊田市の中心街でにぎやかに行われました。愛工大生



手首に光り物を付けて踊るみずわか連

大学祭ブレイベント

二百十六人が献血

「フェニックス」(不死鳥)をテーマにして十月十五、十六日を中心に行なわれる第45回愛工大祭のブレイベント、恒例の「春の献血」呼び掛けが五月三十一日と六月一日の二日間、大学12号館前で実施されました。二日間で延べ二百六十三人の申し込みがありました。うち四十七人が

を軸に教職員有志ら四十五人で編成の「みずわか連」は、三十日夜の総踊りに出場。昨年の「トヨタふれあい大賞」に続いて最高賞の「おいでん大賞」を目指そうと、工科系の学校らしく、発光ダイオードを両手首で光らせながら元気溢れる躍りを披露しましたが、入賞は逃しました。手首を飾った「光り物」は、青と白の発光ダイオード計8個をつなぎ合わせ、バッテリーで光らせる参加助教授苦心の作ですが、最高賞獲得の「秘密兵器」にはなりませんでした。

採血不適合だったため、結局、二百十六人の献血となりました。献血の内訳は、二〇〇ミリットが三十五人、四〇〇ミリットが百六十五人、成分献血は十六人でした。愛知県赤十字血液センター(神谷忠所長)によると、最近血液事情がかなり悪化しており、学生たちの協力で輸血用の血液が集まっているとのことでした。

スポーツ情報コーナー

高校野球部の甲子園春夏連覇はならず

第87回全国高校野球選手権大会で愛知県代表の愛工大名電は、大会4日目の8月9日第2試合で甲子園に登場。初出場の清峰(長崎)と対戦しましたが延長13回、2-4で敗れ、史上6校目を目指した春夏連覇はなりませんでした。

愛知大会は7月30日にナゴヤドームで決勝戦が行なわれ、名電は9-0で豊田大谷に完封勝ちし、2年ぶり7回目の甲子園出場を決めました。

愛知大会は7月16日に開幕しました。シード校・名電は7月22日の3回戦から登場し山田を8-1、4回戦(7月25日)名古屋南を8-1、5回戦(7月27日)大同工大大同を12-0(5回コールド)と3試合連続でコールド勝ちしました。準々決勝(7月28日)は愛知啓成に先制されたものの6-3で下し、準決勝(7月29日)は豊田西に9-3で勝って決勝に進みました。



県大会で優勝しマウンドに集まるナイン

高校の水泳部・野球部を学園表彰

全国レベルの成績を収めた文化・スポーツクラブなどが対象となる学園表彰の授与式が8月2日に行われ、第52回東海高校総体水泳競技で9選手が全国標準記録を突破した水泳部の八尺政文、中原早苗両顧問、それに第87回全国高校野球選手権愛知大会で優勝した野球部の織田秀彦部長、倉野光生監督、小宮裕希コーチの計5人に後藤淳理事長から賞状などが贈られました=写真。水泳部員は全国高校総体に出場、野球部員は夏の甲子園で春夏連覇を目指しました。



陣内外野手が愛知大学野球で3冠達成

愛知大学野球は5月30日に春季リーグが閉幕しましたが、愛工大3年の陣内栄基(じんのうち・ひでき)外野手=佐世保工高出身、右投げ左打ち・写真=が打撃賞とベストナイン(外野手)に、また2年の清水大生(しみず・ひろなり)捕手=星城高出身、右投げ右打ち=がベストナイン(DH)に輝きました。両選手とも、ベストナインは初受賞です。

春季リーグ戦で愛工大は6勝8敗、勝ち点2、勝率4割2分9厘で4位に終わりました。しかし、個人記録では陣内選手が打率、本塁打、打点の3冠王に輝きました。陣内選手は53打数21安打で打率3割9分6厘、2本塁打、打点9の記録でした。なお、清水選手も2本塁打、9打点で陣内選手と並ぶ活躍でしたが、打率は52打数17安打で3割2分7厘の4位にとどまり、ダブル3冠王はなりませんでした。なお、秋季リーグは9月3日に開幕します。

親が「大学の出身確かめたい」

愛工大 保護者見学会は増加の傾向に

夏休み期間中、各大学ではオープンキャンパスや入試説明会など、高校生向けの各種イベントが開催されますが、最近、保護者による学校見学会が増加しています。高校生・受験生の目ではなく、親の目でしっかりと大学の出身を点検し、わが子の進路指導に役立てたいということのようです。

愛工大には七月下旬までに愛知、岐阜、静岡、滋賀県の六高校から保護者計二百三十四人が訪れ、大学の概要や入試方法の説明を聞

いたり、耐震実験センターや地域防災研究センターなどの施設を見学して回りました。大半が高校の教諭数人に引率されたクラス単位の保護者ですが、保護者自ら大学を選んで直接、見学を申し込んでくる場合もあり、自家用車などを使い十人前後で見学に訪れるケースも見られました。このほ



耐震実験センターを見学する保護者ら

か、富山県の高校からは、二年生十四人が列車などの交通機関を利用、大学を集約した見学会も開催されています。保護者の大学見学会も今後、ますます盛んになりそうです。

名古屋で私立中進学フェア

附中など20校が保護者らにPR



愛知県私学協会中学校部会主催による「二〇〇五私立中学進学フェア」が七月

三十日と三十一日、県内の私立二十中学が参加して名古屋市中区栄の松坂屋南館八階「マツザカヤホール」で開かれました。

附属中のブース(写真)では保護者や小学校高学年の児童らに、教職員が交代

で授業内容やクラブ活動、入試方法などについて説明していました。最近では中高一貫教育への関心が高く、愛工大名電、愛工大へと進める附中人気も上々で、昨年を上回る大勢の人たちがブースを訪れました。

と説明会を開きました。

10号館二階の大講義室で大学の概要や学部・学科の説明を聞き、図書館や耐震実験センターなども見学して保護者たちは施設の内容に納得した様子でした。



施設や授業環境をじっくり見て回る参加者たち

ACEは全9回の体験入学会を開催

愛工大情報電子専門学校(ACE)では、高校生らに授業の楽しさや技術の習得状況などをよく知ってもらい、平成十八年度入試で受験し、入学してもらおうと、今年度も計九回の体験入学会を実施することになり、六月十八日に一回目が開催されました。

静岡、岐阜県も含めて五人の高校生と保護者三人の計八人が参加。まず学校の概要説明やビデオ紹介、取得できる資格、愛工大への編入方法などについて説明があり、教室や実習機器などを見学したあとプログラミングとCADの二班に分れて授業を体験しました。

編集後記

愛工大がホスト校を務めた「IDCロボコン二〇〇五」の愛工大予選、万博会場決勝が、無事終わりました。愛工大恒例の夏のイベント「まるごと体験ワールド」・「オープンキャンパス」も、大勢参加して成功裡に終了しました。愛工大が主催する「21世紀・万博大学」は、全十三回のうち十一回がすでに開講され、九月の二講義を残すだけとなりました。綿密な計画、周到な準備、参加スタッフの「あうん」の呼吸など、イベントの成功に欠かせないものがいくつもあります。そしてイベントが終わったあとは、きつちりと結果を分析し、将来への展望を忘れないことでしょうか。何がよかったか、そしてどこかに問題はなかったかなど。成功に浮かれているのは、次回の成功はおぼつきません。成功は自分の努力、失敗は他人のミス。いつも自己中心の評価をしている人が、周りにも少なくありません。自戒を含め、今自分がやらねばならないこと、してはならないことを、しっかり見極めていきたいと思います(柳)